

USBメモリの取扱い7原則

～個人情報の漏えいの防止とセキュリティ対策のために～

昨今、USBメモリの紛失・盗難等による個人情報の漏えいやウイルス感染などが問題となっています。USBメモリに係る事故の多くは管理方法の徹底によって防ぐことができるものですので、USBメモリを利用する際は次の事項に気を付けてください。

1 不必要にUSBメモリは持ち歩かない

個人情報が保存されていない私物のUSBメモリであっても、不必要にUSBメモリを持ち歩いてはいけません。情報を持ち運ぶ危険性を日頃から意識しておくことが、個人情報の漏えいを防ぐ際に非常に重要になります。

2 私物のUSBメモリに大学が収集した個人情報を保存しない

大学での研究等に利用するために収集した個人情報は、私物のUSBメモリに保存してはいけません。

3 必ずセキュリティ機能を活用する

USBメモリに情報を保存する場合は、必ずファイルの暗号化やパスワード設定を行うか、自動的にセキュリティ対策ができる物を利用してください。

4 安易に学外へ持ち出さない

研究や実習のために、個人情報等が入ったUSBメモリを学外へ持ち出すと、個人情報漏えいの事故に繋がります。原則、学外へ持ち出してはいけません。

5 学外へ持ち出す時は、指導教員の承認を得る

やむを得ず個人情報が記録されたUSBメモリを学外へ持出すときは、必ず指導教員の承認を得てください。その際、口頭ではなく、管理簿で確認してください。

6 USBメモリに紛失防止策を施す

USBメモリは小さく、軽いため、学内外で落としたりしても気づかないことがあります。ネックストラップ等の大きなストラップを付けて紛失防止をしてください。

7 個人情報を紛失した際は直ちに連絡をする

個人情報を紛失してしまった場合、今後の被害を最小限に抑えるためにも、初動対応が非常に重要です。個人情報を保存したUSBメモリを紛失してしまった（紛失の可能性のある）場合は、直ちに指導教員に連絡してください。